



## 宮司プレス百二十八号

彦島八幡宮 宮司ニュース  
発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十九年十二月十四日

◇宮司の柴田です。 歳月の流れは、少しも

違（たが）わず、静かに過ぎてゆくのであります。加齢のせいでしょうか、年毎に加速しているように感じます。 押し迫りました、暮れ果（は）つる師走もなかばです。 毎月発行しているはずの宮司プレス、本来でありますならば百三十九号であります。遅れの累積は、いつのまにやら十一月となりました。 お待たせしました、宮司プレス百二十八号の発行です。 今年、百二十一号からのスタートでしたので、八回しか発行してないこととなります。 遅れの累積の原因は、のべ四ヶ月の休刊なのであります。

◇さて、今上陛下（きんじょうへいか）は、再来年四月三十日に御位（みくらい）をお譲りになる、御譲位（ごじょうい）をされまして、実に光格天皇（こうかくてんのう）以来、二百年ぶりに御譲位の儀礼が行われることとなりました。 それにともない、改元（かいげん）が行われます。 江戸時代の最後の

元号は、慶応でありましたが、慶応を定める

に際して他に四十もの候補があったそうです。 実は、今の元号である「平成」、「書経」の一節「地平天成」から引いた二文字も候補の一つだったそうです。 現在は、西暦表示が標準、当たり前のようになっていきます。

イエスキリストが誕生したとされる年を紀元（きげん）とするのが西暦、西紀（せいき）であります。 しかしながら、日本には、初代天皇である神武天皇（じんむてんのう）様が御即位された、西暦ですと紀元前六百六十年を紀元とする皇紀がありまして、今年、皇紀二千六百七十七年にあたります。 さしで

がましいのですが、西暦は、他人の時間座標軸（じかんざひょうじく）のように感じます。 皇紀が、本来の日本人の時間座標軸だと思えます。 さらに、元号は、天皇陛下と時間を共有している時間座標軸なのです。 皇紀という悠久（きうく）の遠くなるような長い時間の（と）の時間のなかで、私共は生かされている

のでありますし、平成という、陛下と時間を共有している今を生きているのです。 平成に残された時間は、一年と五ヶ月余り、大切に過ごしたいものです。

◇御厨（みくりや） 貴東京大学名誉教授は、明治以降の日本が約三十年ごとに節目を迎えてきたと「三十年周期論」を唱えていらつしゃいます。 明治三十四年は二十世紀、西暦千九百年の始まり、戦前戦中戦後と戦争の色の濃かった昭和の前半三十年を経て、昭和三十年に高度経済成長の入り口に立ちました。 「元号は時代を想起させる、三十年でくくれるダイナミズム（活力、迫力、力強さ）を感じる」と語られています。 この「平成」の三十年をふりかえりますと、高度成長はすでに終わり、バブル経済がピークを迎え崩壊（ほうかい）しました。 その後は、「失われた二十年」と呼ばれ、大震災等閉塞感（へいそくかん）も強まりました。 しかしながら、それでも社会が非常にうまく運営されてきたのではないかと思います。

社会の安定を保ってきた三十年だったのではないでしょうか。 四百年の長い将棋界の歴史のなかで、史上初めて「永世七冠」の称

号を獲得された羽生棋聖は、「十年とか二十年、三十年を同じ姿勢で、同じ情熱を傾けられることが才能」と仰っています。これからの三十年、私共は、羽生棋聖の仰（おっしゃ）る「才能」、日本人の「才能」を見失ってはならないと思います。かつては、「お天道さまがみている」として、人知（じんち）の及ばない神聖な存在に対する畏敬（いけい）の念、恐れと敬いのミックスした心が、存在

しました。感謝とお陰様という謙虚な気持ちをお忘れなかつたのです。こうした伝統を無視して、目に見える利益や効率のみを追求する風潮が続けば、暗い未来の三十年になってしまいます。宮司プレス百号にも記載しましたが、明治時代の神道家（しんとうか）である本田親徳（ほんだ ちかあつ）は、「音に聞き 眼に見える物等（ものら）

悉（ことごと）に 産土神の神身にこそあれ」とい

う和歌を詠まれています。音に聞き、眼に見えるものすべて、当たり前のことにも神様の姿、神様のなせる業と、心から感謝して感動する、その心がけを忘れない、日本人の「才能」ではないでしょうか。残り少な

い平成の時代、次の元号の時代が、輝かしい未来であるためにも、大切に守り伝えていきたいものです。ご自愛をお祈り申し上げます。次号は、今年中に、来年の干支（えと）について詳しく述べたいと思います。現在、奮闘研究中でありますので、乞うご期待ください。

◇九月の祭典行事報告

▼月次祭

\*九月一日、十五日

▼若宮神社例祭

\*九月八日、九日

▼福浦金刀比羅宮月次祭

\*九月十日

▼貴布禰神社例祭

\*九月二十日、二十三日

▼秋季祖霊祭

\*九月二十三日

▼朝粥会

\*九月二十一日

◇九月の宮司の行事会議等活動報告

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇下関支部幹事会、総代敬婦合同会議

\*九月十一日  
◇神社関係者大会

\*九月十三日

◇下関市敬神婦人会茶話会

\*九月二十二日

◇講演講師養成研修会 \*九月二十七日

◇神宮大麻頒布始祭、教学研究部研修会

\*九月二十八日

◇豊田神社鳴瀬宮司就任祝賀会

\*九月三十日

▼下関西ロータリークラブ

◇例会 九月六日、二十日

▼美祢社会復帰促進センター教誨活動

\*九月二十五日

（集合教誨、女子）

▼その他

◇迫町自治会役員会

\*九月三日（公会堂大掃除）、十九日

◇リバーズ彦島 \*九月九日

◇下関国際高校評議員会 \*九月十四日